

選者総評

皆さん年々川柳が上達していると感じました。

これは毎年のようにお伝えしています
が、川柳は五七五のリズムを大切にしながら、人間の喜怒哀楽すべてを詠むことができます。

新型コロナウィルスに悩まされているこのような中でも、日々様々な出来事に遭遇し、喜んだり悲しんだり怒ったり、と心は動きます。身の回りに句材は限りなくあります。ありのままの心を、口語体で素直に詠んでみてください。

日記のように一日一句を作り、後日読み返してみるのも、いいものです。川柳をこれからの人生のパートナーにしてみませんか。きっと楽しい日々になると思います。



課題『歌う』

★佳作

コロナ禍でひとりカラオケものたりぬ

つつみの風

歌ならば両立できる農作業

庄司芳次

ラジオから流れる歌とハミングを

くまりん

夏休みカエルの合唱セミの声

パイナップル

カラオケでしぼんだ心ふくらませ

づぼらや

特選

特選3 うたうんだ心やさしくこもりうた

竹田彩夏

この句から浮かぶ情景は小さな弟や妹に、優しく子守唄を歌うお兄ちゃん・お姉ちゃんの姿。兄弟喧嘩もするけど、本当はとっても仲良し。

特選2 夢でいい推しとふたりでラブソング

デア

推しと言える憧れの人がいるだけで、少し人生が変わることもあります。今はライブやコンサートに行くことは難しいですが、夢の中では思いっきり幸せの時間を過ごせます。デュエットなら最高。

特選1 戦場で歌う少女に励まされ

たっち

ウクライナの防空壕で「レット・イット・ゴー」を歌った少女の歌声は清らかで、その姿は天使のように見えるえました。あの時の少女は、今避難先のポーランドでどのような生活を送っているのでしょうか。

課題『旅行』

★佳作

旅行でも仕事気になる日本人

阿部 徹

4Kで行った気分さガラパゴス

デア

コロナ禍は入浴剤で旅気分

エミリー

ひとり旅足の向くまま西東

づぼらや

コロナさけ県民割で小旅行

荒井 浩



特選

特選3 経済とコロナ背負って旅支度

弘子

今年は行動制限なしの夏でした。抗体検査を受けながら、旅行に、帰省に動いた夏。感染者数の増加は心配になりますが、経済を無視するわけにもいきません。心の葛藤を上手に詠んだ句になりました。

特選2 ひとり旅アバンチュールも織りまぜて 宿六

アバンチュールとは懐かしい言葉。青春時代の一コマかもしれませんね。今も思い出し笑いができる好い思い出か、大火傷をした苦い思い出か。どちらにしても、その頃があって、今があるのです。

特選1 道中で老妻の手を引く果報かな オイケイ

旅にもいろいろありますが、終活を迎えるころにはこのような旅がしたいもの。この句の「道中」は人生のことかもしれません。若い頃も、年を重ねてからも、手を繋ぐとしっかりと相手の体温が伝わります。とても大切なひと時。
※この句の「老妻」は「つま」と読み、中七が整います。

課題『自由吟』

★佳作

エアコンの特等席はいつもタマ

しし丸

ウクライナ攻めるロシアの非人道

ケンチャン

夏の夜のああ懐かしや花火の香

とんぶー

別腹と言ってはみたが早歩き

こしあんよりつぶあん

人生は先の読めないゲームかな

弘子



特選

特選3 コロナ禍で仙台四郎も客よべず

小野寺 彰

自粛や規制措置が続き、飲食店をはじめ多くの商店が長く苦しい状況を余儀なくされました。「仙台四郎」を用いて上手く表現しています。

特選2 眉を書くマスク美人になるように

ポプラ

新型コロナウイルスの世になり2年半が過ぎました。今も第7派が猛威を奮っています。マスクを外せる日はまだ先。そのような中でも、綺麗になる努力を惜しまないのが女性。いやいや今は男性も美を追及する人が多くなりました。時代はジェンダーフリー。

特選1 紫陽花や素顔を見せぬ義母が逝き

佐藤 武

紫陽花は別名で七変化とも言われます。素顔を見せなかつたお義母さんを紫陽花に見立て、見事に表現しています。素顔を見せないのは、プライドであったり、優しさや寂しさであったり。合掌。

 市民センター賞（三本松市民センター職員選）

『歌う』

無口な夫ひとり車で熱唱す

夕唯珂

ホーホケキョお道化て歌う百舌もずの声

我妻 眞寿美

鼻歌やゆるんだ空気につい出づる

石ちゃん

大声で歌って踊り憂さ晴らす

ナカムラ

十八番先に歌われ興ざめる

チャム

さえずりとともになくなるブルーベリー

ふうちゃん

吹く風にゆれる葉奏でる交響曲シンフォニー

時代 劇子

『旅行』

旅行にとその気になった割引制

中村 幸雄

あこがれの世界一周画面にて

オーチャン

待っててね母を連れ出し親孝行

ちばちゃん

さあ行こう君との散歩は大旅行

福

コロナ禍でたのしいりよこういつになる

ミツチー

旅たびの度夫婦の絆確認す

テヌキババ

公園へカメラ抱えてプチ旅行

ノンタン

『自由吟』

あのビキニ五十年過ぎてどこ行つた

宿六

コロナ禍で想いが募る三本松

池ちゃん

孫たちとふざけあいつつ花火揚げ

相澤 浩

何もかも値上げ値上げでねを上げる

浪翁

断捨離の参考書を買って物増える

雪だるま

湧き出でし雲の切れ間の青い空

慶ちゃん

白髪染めやめて周囲がご親切に

鶏和えず